

咳喘息

「風邪をひいた後に咳だけがいつまでも治まらない」、「花粉症の季節になると咳が出るようになる」といった患者さんが最近増えています。それは咳喘息の可能性がります。

今回は咳喘息について解説します。



症状

咳喘息は気管支喘息の亜型で、ゼーゼー、ゼロゼロといった喘鳴(ぜんめい)や呼吸困難を伴わず、咳だけを唯一の症状とする病態です。

咳は就寝時や深夜、早朝に悪化しやすいですが、花粉の影響だと昼間だけに起こる方もあります。

痰を伴わないいわゆる「乾性の咳」の方が多いですが、少量の非膿性痰を伴う方もあります。

原因

アレルギー反応によるのですが、そのメカニズムは完全には解明されていません。

上気道炎、冷氣、運動、喫煙、雨天、湿度の上昇、花粉や黄砂の飛散などが増悪因子となります。



診断

診断基準は以下の2つを満たすことです。

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1 | 喘鳴を伴わない咳が3週間以上持続し、聴診上も喘鳴を認めない。 |
| 2 | 気管支拡張薬が有効。 |

治療

気管支喘息の治療と基本的には同じです。

吸入ステロイド薬を中心として、必要に応じて β_2 刺激薬(気管支拡張薬)、ロイコトリエン拮抗薬(抗アレルギー薬)を併用します。治療を行えば、多くの患者さんは症状が速やかに軽快しますが、中止すると再発する患者さんは、必然的に長期の治療が必要となります。

花粉や黄砂が原因となる、季節性がある患者さんに対しては、症状が出始める時期に治療を開始し、季節が過ぎれば治療を中止してよいとされています。ただし、経過中に通年性に移行することがあるので、注意が必要です。

また、通年性の患者さんにおいては、治療により症状が出なくなっても1~2年は吸入ステロイドの治療を続ける必要があります。

予後

成人では、経過中に30~40%の患者さんで喘鳴が出るようになり、典型的な気管支喘息に移行するといわれます。

したがって、治療を中止しても症状の再発には十分注意が必要です。